



# 二宮金次郎

江戸時代のお話です。  
二宮金次郎という子供がおりました。  
金次郎の家はとても裕福な地主でした。

しかし、天災などで

村はお米の収穫ができないう状態が

何年も続いていました。

人々の暮らしはとても苦しく、

金次郎の家もだんだん

貧しくなっていきました。



金次郎が七歳になると、

お父さんは読み書きを教えるようになりまし  
た。しかし、紙や筆を買うお金がありません。  
そこで、箱に砂を入れて、その砂に棒で字を書  
いて文字の練習をしました。

「農民もしっかり学問を積み、侍に意見ができるようになれ。」  
というのが、お父さんの口癖でした。

お父さんは学問が好きで家にはたくさん  
の本がありました。金次郎はお父さんを見習  
って熱心に本を読むようになりまし  
た。



行燈

侍 さむらい  
口癖 くちぐせ